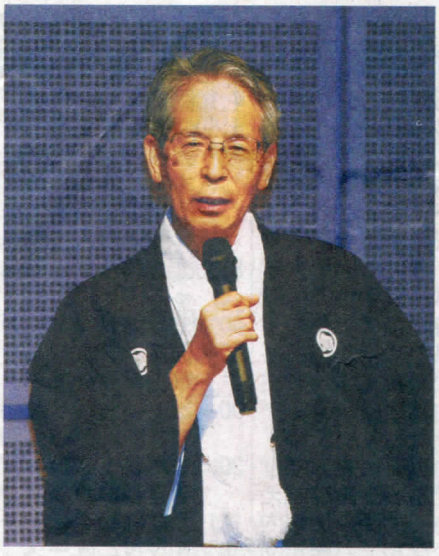
御神渡りに温暖化の影響

岡谷で環境セミナー　宮坂宮司が語る

岡谷市と環境市民会議おかやは19日、「御渡りと地球温暖化」をテーマにした環境セミナーを同市のカノラホールで開いた。講師は、諏訪湖面に張った氷が割れてせり上がる御神渡りの出現を観察し、記録を続ける八剱神社（諏訪市）の宮坂清宮司(74)。出現しない「明けの海」が近年続くとし、身近な環境に及ぼす気候変動の影響について警鐘を鳴らした。

（小山眞由美）



御神渡りと地球温暖化について語る宮坂清宮司

御神渡りに関する記録は、となく現存する。1986年を基に40年代まではほぼ毎年室町時代の1443年から5から御神渡りの認定と神事を出現していたが、2019年82年間にわたり途絶えるこつかさどる宮坂宮司。グラフからは6季連続の「明けの海」と伝えた。

諏訪湖の御神渡りを題材に、環境保護団体グリーンピース・ジャパン（東京）が製作した映像作品「御渡り」の動画を交えて紹介した。いにしえの人たちは湖の結氷に畏怖の念を抱き、自然信仰の原点にもなったと解説。今冬も厳しい寒さの中で続けた観察を振り返り、自然と人とのつながりを語った。

御神渡りの記録「御渡帳」については、1759年に明けの海を記載。高島藩主が江戸幕府に献上する「氷餅」が高島城内では作れず、標高の高い霧ケ峰でようやく作ることができたと暖冬の影響に触れた。

「諏訪人は自然の恩恵を受け、湖と共に生きてきた」と宮坂宮司。「御渡りが出現しないのは、温暖化の影響と思わざるを得ない。一人ひとりがどうあるべきか考え、事実を認識することが大事」と語り掛けた。

会場では市内外の約120人が聴講した。セミナーは、身近な環境問題への市民意識を高めようと年1回開いている。